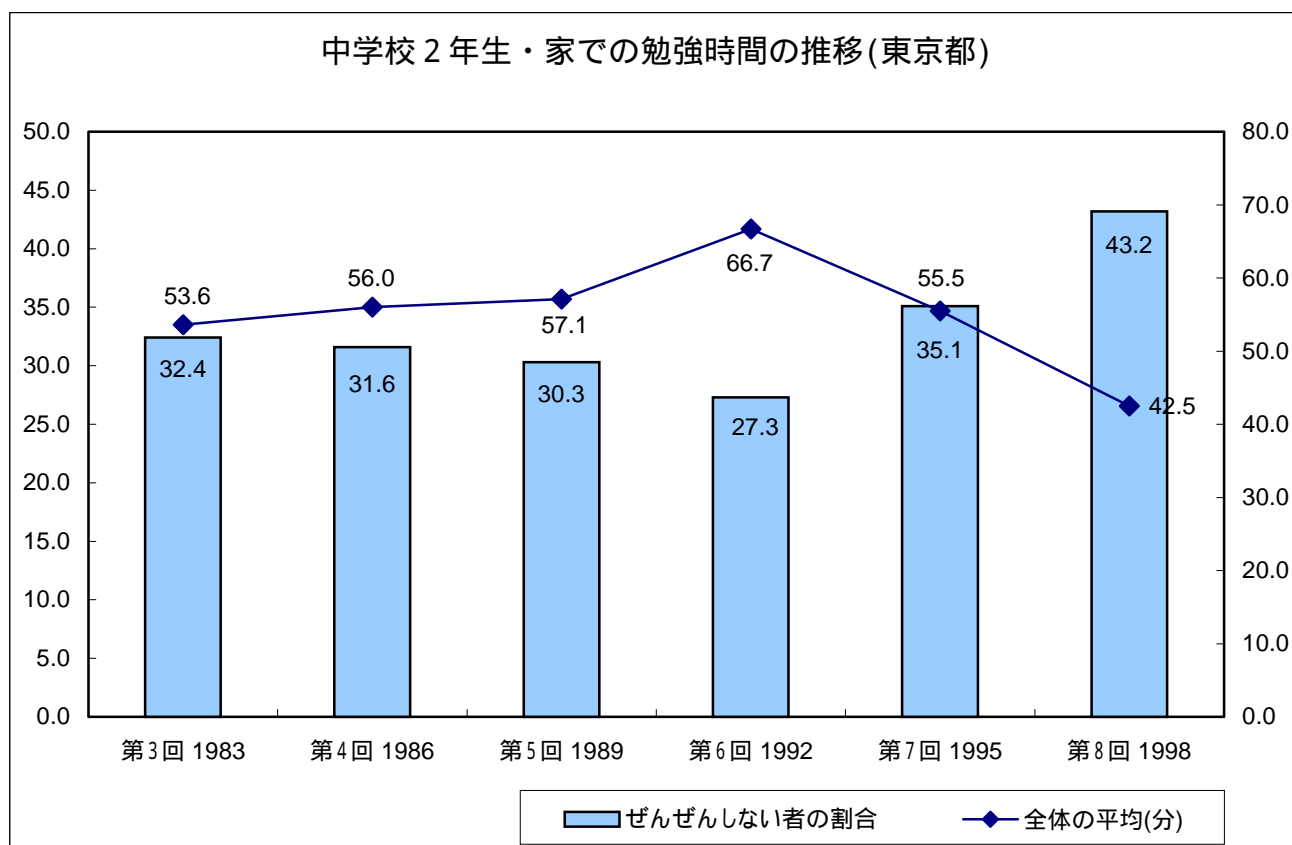
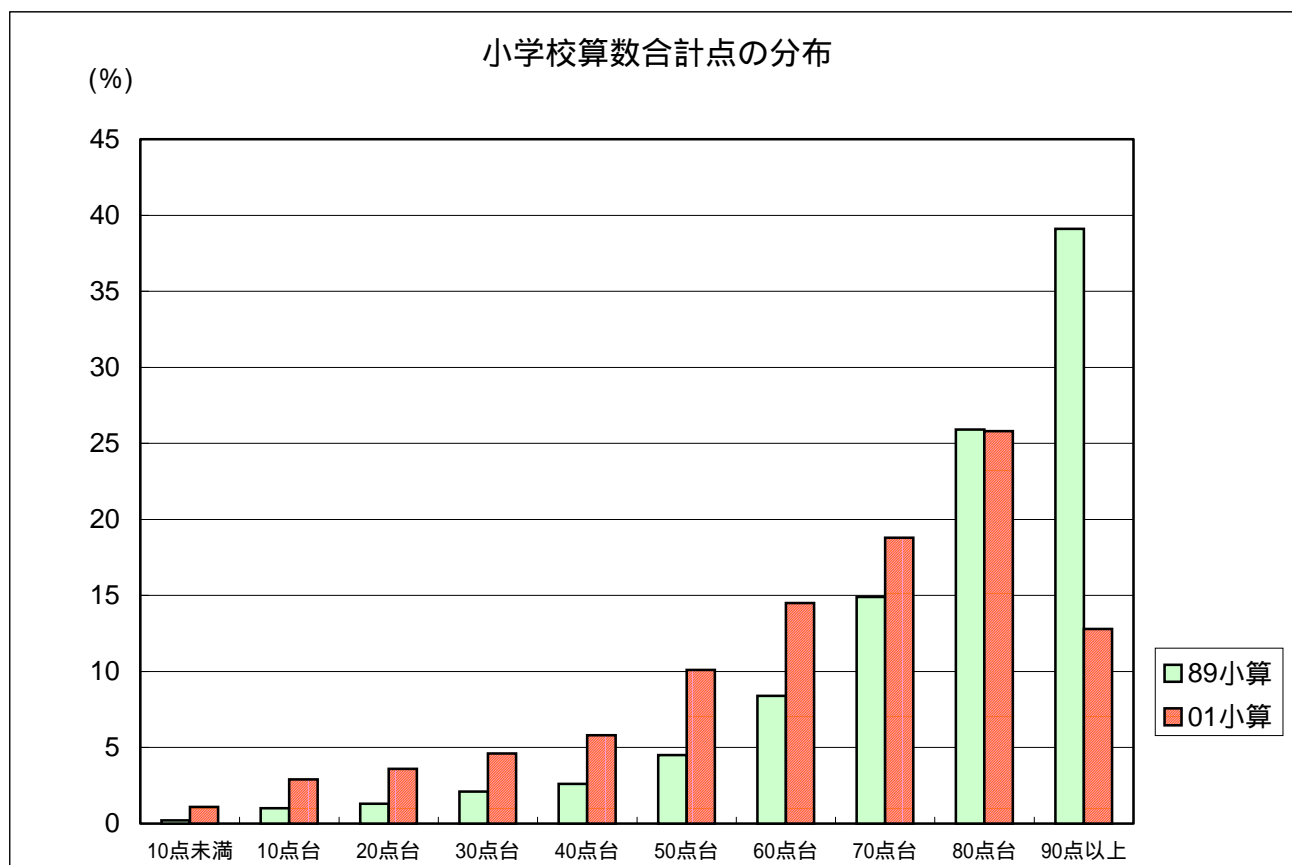


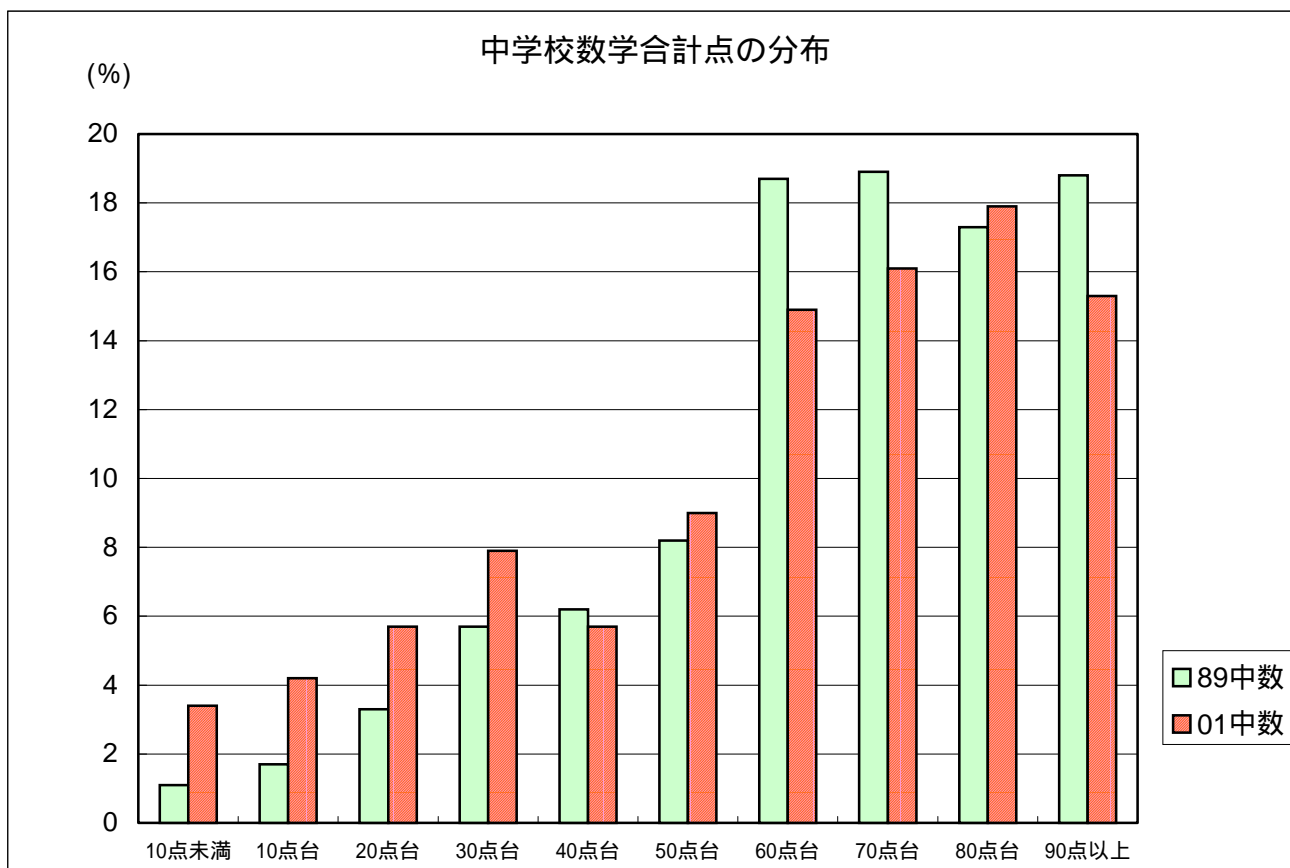
1. 学習離れの実態 1992年までは中学生の家での勉強時間は減っていなかった。92年に前回の学習指導要領が実施に移された後、勉強離れが急速に進んだ。



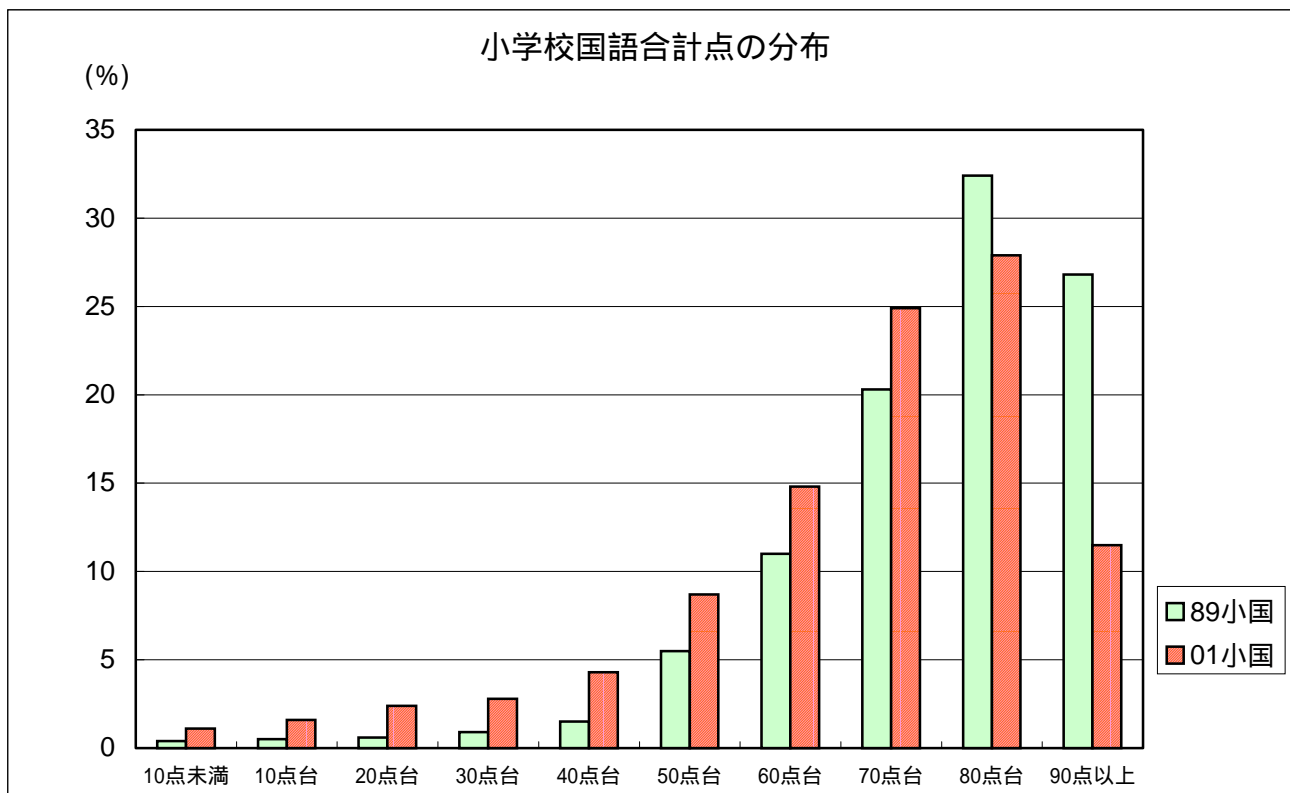
2. 「基礎学力」の低下



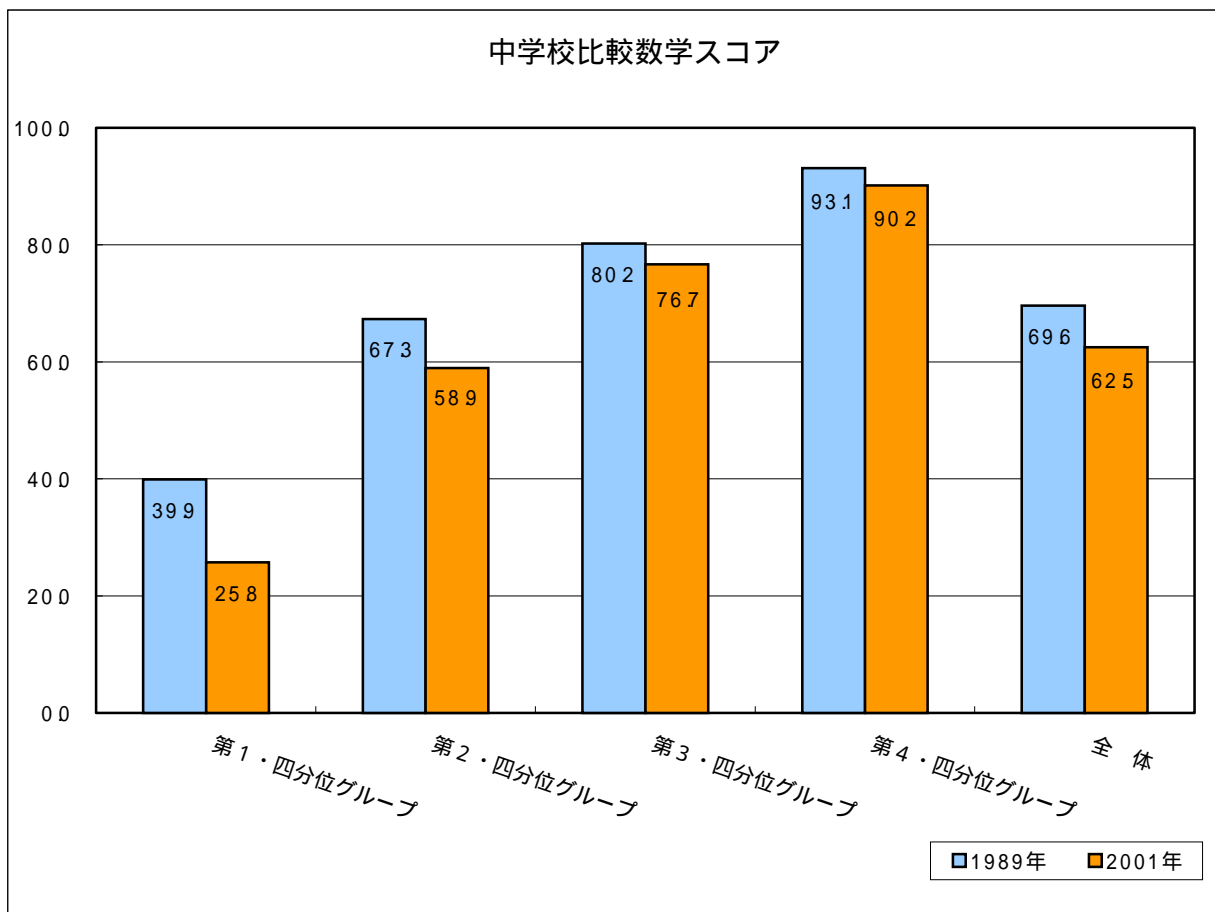
89年の平均点が80点の基礎的な問題で90点以上が激減した。



2001年には30点以下の生徒が増え、30点台に二つ目の山が = 二こぶ化

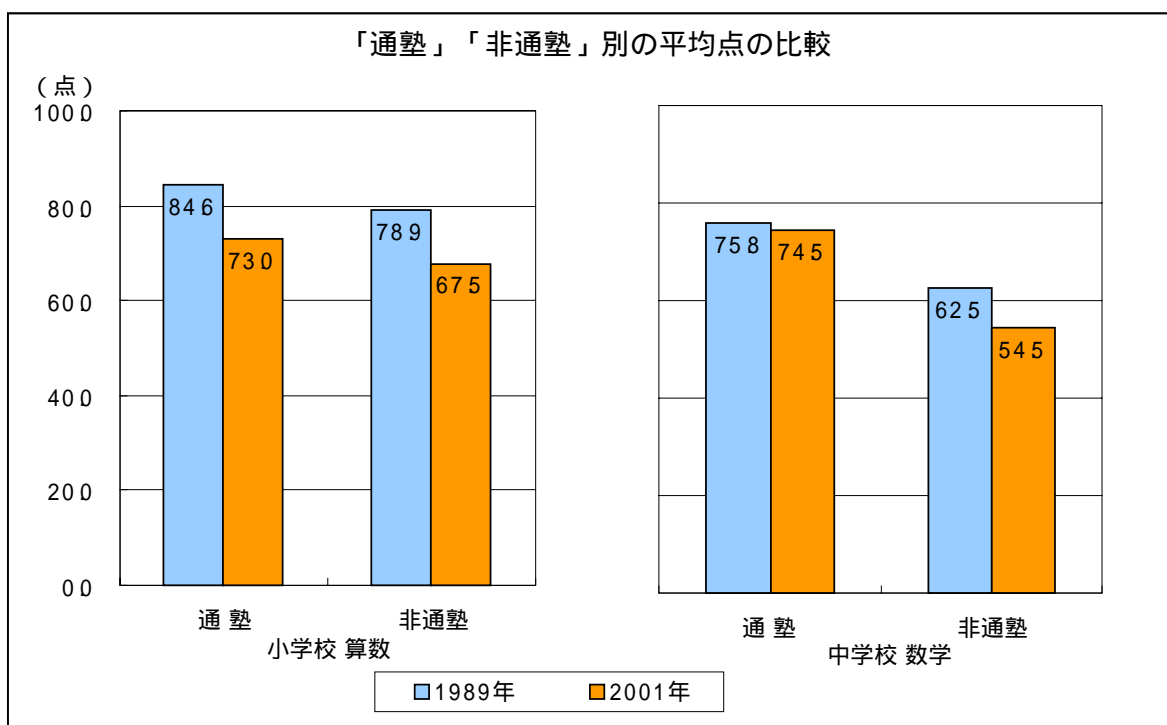


### 3 どの層の学力が低下しているのか？



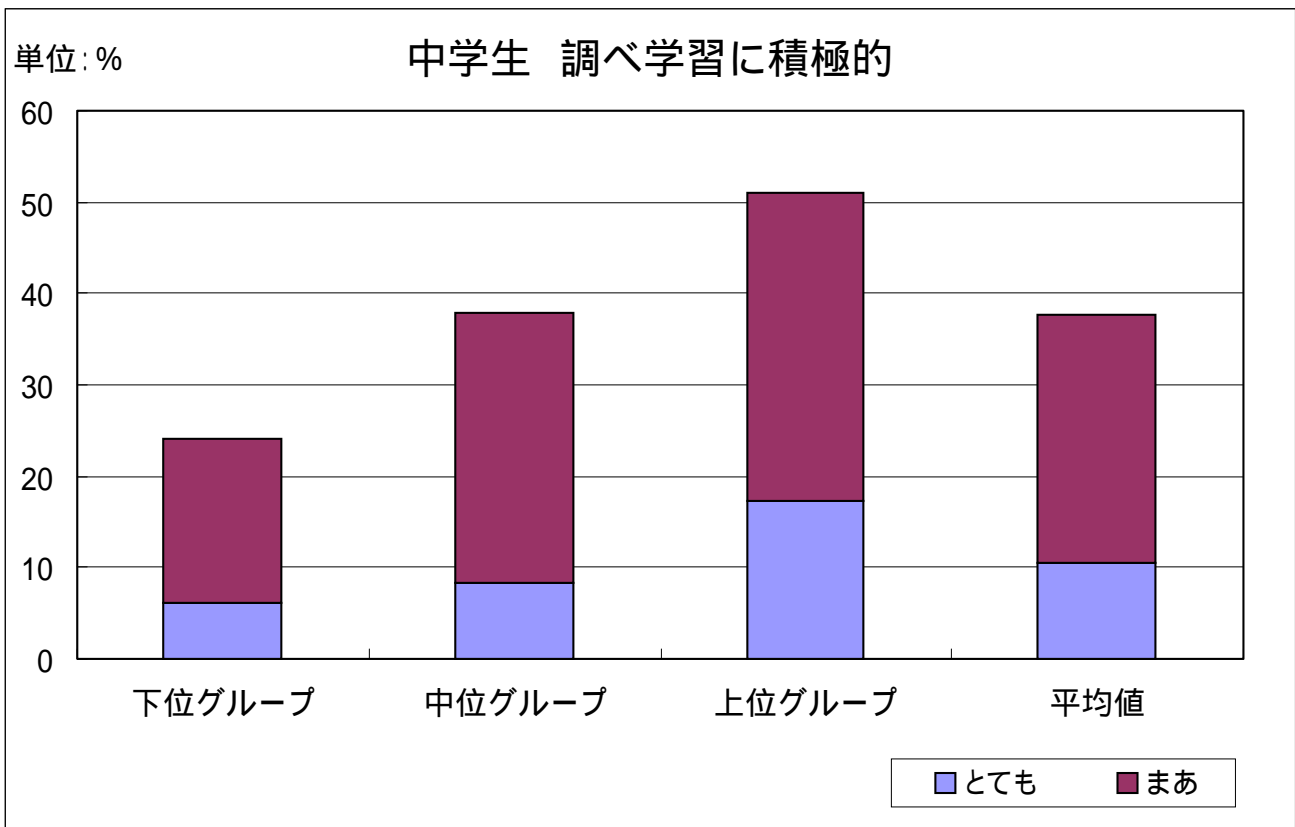
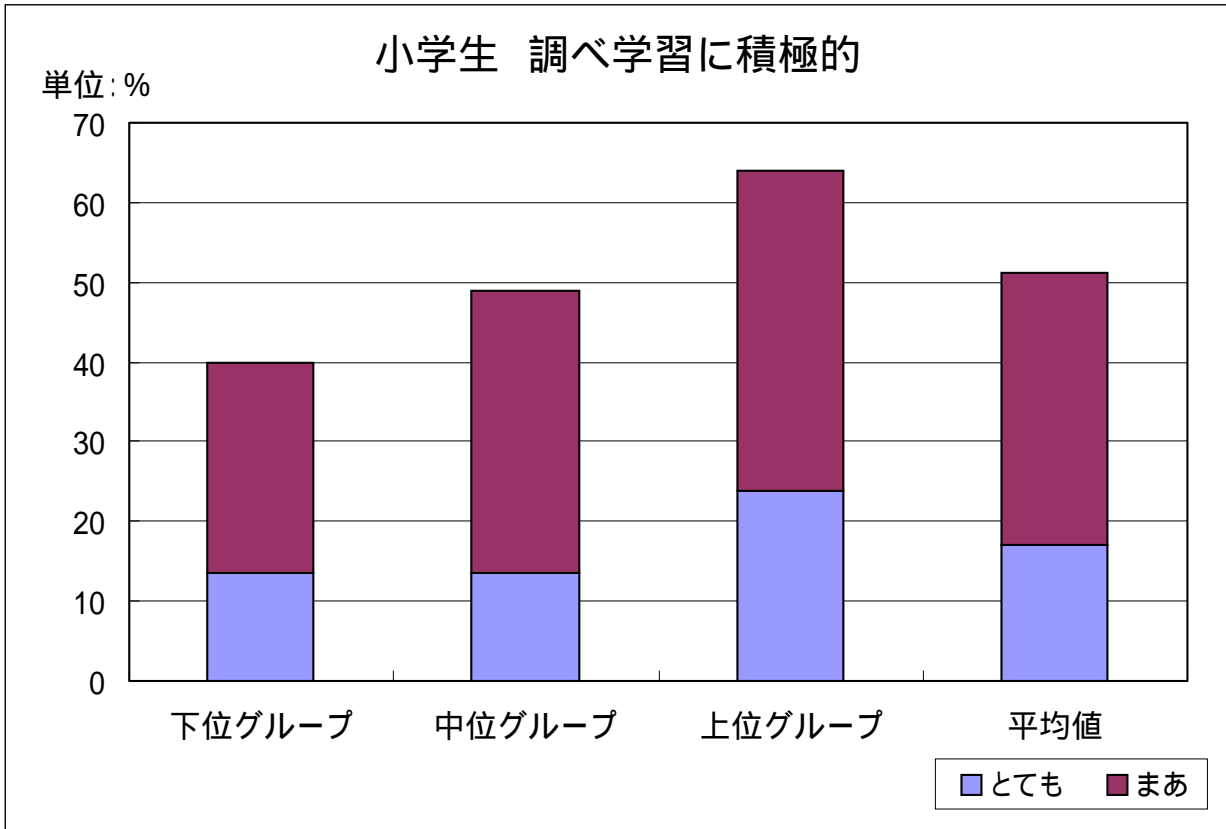
それぞれの年度ごとに得点別に生徒を4分の1ずつに分け平均点を出すと、一番勉強の不得意な生徒のグループで平均点が大きく落ちていた。「学力低下」成績下位層の困難さを増している。

### 4 家庭環境や塾の影響



中学生では塾に行っていない生徒で低下、小学生では89年の非通塾者は01年の通塾者より得点が高い。

5 「新しい学力観」「生きる力」を育てる学習の家庭環境の差



家庭の文化的環境ごとにより生徒を3つのグループに分けると、文化的階層の上位のグループほど、生徒たちが自分で調べ、考える学習に積極的に関わっている。

6 公立校離れがもたらす結果

東京大学文科1類 高校設置者別入学者比の推移

	1980年	1989年	1999年
公立占有率	44.0%	35.1%	28.5%
国立占有率	15.2%	13.9%	13.2%
私立占有率	40.8%	51.0%	58.3%

東京大学法学部に進学する文1入学者の7割強が国立私立の出身者（その多くは中高一貫校）によって独占されるようになった。この傾向は、今後ますます顕著になると予想される。

7 「フリーター」「高卒無業者」はどこから生じているか：社会階層の影響

保護者職と高卒後予定進路のクロス表(%)

		高卒後予定進路			合計
		就職	進学	無業者	
保護者側	ホワイト	199	312	44	555
		35.9 %	56.2 %	7.9 %	100.0 %
	自営業	213	248	55	516
		41.3 %	48.1 %	10.6 %	100.0 %
	ブルー	261	179	30	470
		55.5 %	38.1 %	6.4 %	100.0 %
	流動的雇用者	81	55	30	166
		48.8 %	33.1 %	18.1 %	100.0 %
	その他	22	18	5	45
		48.9 %	40.0 %	11.1 %	100.0 %
合計		776	812	164	1752
		44.3 %	46.3 %	9.4 %	100.0 %

\* 「進学」は、進学希望（これから受験するなど）を含む

\*\* 「無業者」は、「パート・アルバイト」「未定」「その他」と合わせたもの

高校卒業後に進学も正規の就職もしない生徒は、親自身が雇用の不安定な家庭の出身者に多い。また、別の調査では、家庭の事情で高卒後に進学できない家庭の生徒ほど、無業者となる。階層の影響増大

8 基礎的な読み書き能力の低下と将来への不安：読み書き能力に自信がないと思うほど将来に不安

